

COI-NEXT中間評価

弘大 最高「S」獲得

弘前大学は20日、文部科学省などが実施する「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の第1回中間評価で、同大が5段階中最高の「S」ランクを獲得したと発表した。健康を基軸に地域経済の発展と健康寿命の延伸を目指す取り組みが評価された。(菊谷賢)

健康軸の経済発展評価

同大は、2022年10月、COI-NEXTの拠点として採択され、プログラム「健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwellbeing(ウェルビーイング)地域社会共創拠点」を通して、健康データを活用した地域経済の循環モデルの構築を目指してきた。

プロジェクト4年目に行われた中間評価では、20年以上蓄積してきた岩木健康増進プロジェクトの健診データや、行動変容を促す「QOL健診」の拡大、健康ビッグデータの活用基盤の

たものと受け止めている」とし、「後半期間では本格的な成果創出によって、本県

の短命県返上はもとより、地域経済の活性化とウェルビーイング(心身の健康や社会全体の幸福)向上に研究面から力強く貢献していきたい」とコメントした。

整備などの進展が認められた。AI(人工知能)やデータサイエンスを活用した疾病予測、医療・介護など多分野のデータ連携による新たな健康モデルの構築も成果として挙げられた。

さらに、PHR(個人健康記録)の活用や成果連動型民間委託(PFS)の導入など、多様な主体を巻き込んだ産学官連携体制の構築も評価の対象となった。

同大の村下公一副学長は「今回の中間評価で最高ランクを得たことは、本学の取り組みの方向性が正しいというお墨付きをいただいた